

### 市営バスの運行について

みどり野にスーパーがなくなったので、買い物に野市のまちまで行かざるを得ない。高齢になると移動手段がなくなり大変困っている。できれば、この本村や土居地区にもバスを走らせてほしい。

**A** 現在、市バスの運行路線を検討委員会  
で検討しています。

市バスは、交通量の多い場所や道幅が狭い道路以外について、自由乗降となっていて、バス停に限らず乗り降りしていただけます。香我美町と野市町を通るバスは全てみどり野を通っており、1日に15便あります。運輸支局への手続きや条例の改正などがありますので、早くにはできませんが、3便ほど本村・土居地区を通るように計画しています。

運賃は、現在75歳以上の方については無料ですが、アンケート調査や利用者からバスの存続のために多少の負担も、という声もあることから、今後検討していく予定です。

### のいちふれあいセンター 参加者 39人

▼東町・東中筋(東中筋南西団地も含む)・切石野田・中組・大國町・武市橋・中々筋・中町・西中筋・東上野・西上野・深淵・西町

### 地域公民館の維持管理

核家族が進み、後継者がいないという中で、地域の公民館の維持管理が難しくなっている。町内会などが集まっ

くわしくは、市役所農林課までお問い合わせください。

②現在、市がすすめているのが、小さな町内会のできないことを、より広い範囲でつなげることで助け合える「まちづくり」です。提案いただいたように、町内会同士が助け合うことで、田役の問題など各町内会の問題や課題の解決につながると考えています。小さな町内会が集まって、まず「自治会」をつくり、将来的にはいくつかの「自治会」と、健康を守る会や高齢者クラブなどの各団体が集まり「まちづくり協議会」に発展していただきたいと考えています。

まだ、なかなか周知できておりませんが、そういった意味で全職員を各地域に担当者として配置し、市内全域でまちづくりをすすめていますので、「理解と」協力をお願いします。

野市町の皆さん、たくさんのご意見をありがとうございました。併せて、開催案内の周知が不十分で、参加をしていただけなかった皆さまにお詫び申し上げます。いただきましたご意見等につきましては市職員で共有し、対応、改善に努めるとともに今後の職務に活かしたいと考えています。

皆さんの声を心にとどめ、職員一同、常に皆さまの目線に立った行政運営を心がけてまいります。

て「まちづくり協議会」という自治組織をつくったら、市役所の方で管理をしてくれると聞いたができるのか。

**A** 市が管理・運営する公民館というのは社会教育法に基づいた教育施設で、香我美町の6つの「まちづくり協議会」の活動拠点となっている各公民館は地域づくりを支援する市の施設となっています。

「質問のように、野市町では本年度みどり野地域が「まちづくり協議会」を設立し、みどり野東公民館を活動の拠点とするため市の管理となる予定です。

市内各地域の自治会・町内会等で所有する公民館は、法制上の公民館ではありません。維持管理費については各地域で負担していただくのが基本です。

### のいちふれあいセンター 参加者 27人

▼北地(北地トリテイ、あおいの団地、サンタウン西野・上岡・高田・宇賀・八丁地・下井団地横井・新道・山下・石家・野地の一部(野地東の中、野地、野地東の西、野地西)・遠山・山地・馬袋・御無所・波江・平井

### 地域の協力体制について

田役、一斉清掃、氏神様の掃除など、ひと昔前は地域総出の活動だった。核家族化や高齢化が進み、参加者の減少に歯止めをかけられない町内会が増えている。昔のように町内会を中心にお互いに助け合うことが難しくなってきた。

### 学校給食センター建設問題

学校給食センターについては、富家地区など3会場で質問や意見が出されました。抜粋して掲載させていただきます、総合的にお答えさせていただきます。

- 教育委員会として、学校給食が子どもたちの成長とどういう関係があると考えているか。また学校給食は教育活動の中でどういう位置づけか。
- 現場で働いている調理師、栄養士、子どもたちが給食を食べている姿を知っている先生方の声を聞いてほしい。
- 参加者を説得できるような資料を整えて話し合いや説明会に臨むべきだ。
- 統合と個別整備のメリットとデメリットをよく検討し、より良い結論につなげてほしい。
- 検討委員会ではどのようなことを話し合っているか。
- 個人的には4千食の大きな給食センターに不安を感じる。今の子どもたちを取り巻く家庭環境は不安定さを増し家族で囲む食卓の風景は少なくなっている。給食が食育の全てだとは思っていないが、このような時代だからこそ、行政が今、どうすれば子どもたちに一番良い給食を提供できるかというところを、中心に検討してほしい。

### ①市役所の支援を

田役で困っている。ここ10年、基本的に作業するのは自分一人。さすがに高齢になって身体もつらく、若い人たちに声もかけているが、それもなかなか定着しない。川がだめになってしまふ。市役所から人役を出してもらいたい。

### ②住民同士で助け合いを

うちの町内会は、例えば一斉清掃にはたくさんの方が参加してくれている。隣組というか、他の町内会に協力してもらおうとか、まずは住民同士の助け合いが重要だと思う。そういう話があれば、私は協力したい。市役所に状況を把握してもらい、調整などをお願いできないか。

**A** ①地域によって実情は違いますが、高齢化や混住化等で田役への出役が困難となっている地域が増え、深刻な問題となっています。市としては田役時に出た土砂やゴミなどの回収作業に担当課総出で当たっており、そのような地域全てに人的支援をするのは大変難しい状況です。

早急な支援策にはならないと思いますが、全国的にこのような問題が増加していることから、国は農業の在り方に環境保全を重要視し、農業者だけでない地域ぐるみの共同活動を支援しています。地域で活動組織をつくり、要件を満たせば活動区域の農地面積に応じて支援交付金が受けられる制度などがあり、野市町では中ノ村、土居、西佐古地区で取り組んでいます。

※農地と市街化が混在すること

**A** 何より、衛生的で安全・安心な栄養バランスのとれた給食の提供を考えています。

家族だんらんの食事は、家庭教育の第一歩であるとともに、大切な家族のコミュニケーションやしつけの場でもあります。しかし、近年は家庭での十分な指導が困難な状況になりつつあります。このため、学校において学校給食を通じたこれまでの食に関する指導に加え、給食の教育的意義を改めて見直し、教育活動全体での指導を充実しています。

給食センターの建設計画については、統合給食センター建設検討委員会を設置してさまざまな事項について検討、協議を重ねています。構成メンバーには保護者、学校長、栄養教諭、調理師等、現場の代表にも入っていただき、各現場と教育委員会との意見交換と併せて意見を収集し、話し合いを進めています。

これまで各地域で説明してきた中で、十分にお答えができなかった面を中心に、昨年春から作業部会を設け、学校給食における食育や地産地消、アレルギー対応などさまざまなテーマについて検討いたしました。また、それらの検討結果で資料を整備し、理解が得られるように取り組んできました。

各地区説明会での「ご意見や昨年12月に実施した保護者アンケートの集計に関する見解、統合と個別建設に関するハード面やソフト面の比較検討などにより、今後の検討委員会で総合的に判断し建設の方向性を決定する予定です。

